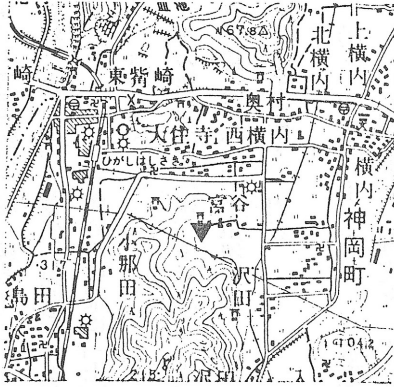


## 兵庫・沢田宮谷遺跡

- 1 所在地 兵庫県竜野市神岡町沢田字宮ノ前
- 2 調査期間 一九八三年(昭58)五月
- 3 発掘機関 竜野市教育委員会
- 4 調査担当者 市村高規
- 5 遺跡の種類 集落跡・池跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代中期～鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(竜野)

沢田宮谷遺跡は、揖保川と林田川に挟まれた独立丘陵東側の東向に開口する小谷に分布しており、古代山陽道より北へ二・四km、筑紫大道より北四・三km、因幡街道の崎崎の渡しの南東〇・八km余りに位置している。

木簡は、県営ほ場整備事業に先立って行われた確認調査によって発見された。木簡の出土したトレンチは谷の奥、北側尾根裾近くに

位置し、厚さ六〇cmの植物堆積層中より板・杭等と共に出土しており、伴出した須恵器碗・土師器杯より一二世紀末より一三世紀初頭の年代が考えられる。植物堆積層の範囲等から推定すると二〇m×二五m余りの池跡と考えられ、池跡の周囲には弥生時代中期と平安時代末の土壌が検出されたが、トレンチによる調査であり、遺跡の性格を明らかにできなかった。本遺跡の周辺における周知の遺跡としては北約〇・八kmに平安時代末の寺院跡が知られているが、他には官衙等の存在を示すような文献上の記述もないことから当遺跡の性格を解明することは今後の検討をまたねばならない。

### 8 木簡の积文・内容

#### (1) 箸筥

(市村高規)